

ヒューマンエラーから脱却するための「人間重視のヒューマンエラー防止法」【会場】 (4125172)

「命令でエラーを防止することは難しい、人間は内発的要因である『意欲』や『やりがい』によって動機付けされる」との理念に基いて「人間力」を改善活動の基盤として構成しています。「ケーススタディ」や「ワークショップ」を楽しく体験しながら「人間重視のヒューマンエラー防止法」を学んでいただくと共にセミナー教材を教育にご活用いただけます。

開催日時	2025年11月4日(火) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	ビジネススキル(思考法・問題解決)
カテゴリー	業務遂行スキル ヒューマンスキル
講師	<p>関弘充 氏 (ヒューマン&クオリティ・ラボ 代表、元 富士通(株) 人材開発部 シニア・レクチャラ&上級教育士(工学)) 成蹊大学工学部経営工学科を卒業し、富士通(株)入社。 品質検査部門、教育訓練部門を経てシステム開発部門において通信・金融・官公庁等のシステム開発マネジメントに関わる(途上、未来工学研究所主任研究員)。 近年、品質問題を抱える本部組織の品質改善に従事し(主席部長、品質保証部長)、S1分野で日本初のCMM&CMMI®レベル5を達成、社長賞&最高品質賞を受賞。 定年後も続投し、同社人材開発部門において「わくわく」元気塾&品質改善講座を開講。 多くのマネージャーおよびリーダー&品質改善プロフェッショナルを育成。2011年、富士通を退職。 その後、「人間力醸成」を基盤にした各種セミナー・講演・企業研修・コンサル等、3万人以上の方々への指導を行ってきてている。</p> <p>■著書: 「人間重視の品質マネジメント ソフトウェア品質保証システムの構築と実践」(SRC) : 堀田 勝美、関 弘充、宮崎 幸生。</p> <p>■日刊工業新聞社発行「工場管理」2018年2月号に講師の「人間重視のヒューマンエラー防止法」についての特集記事が掲載。</p> <p>(注) CMM: 世界的に著名な改善モデル Capability Maturity Model and CMM&CMMI are registered in the U.S. Patent and Trademark Office.</p>
参加費	JUAS会員/ITC: 35,200円 一般: 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)
対象	人間を主体にした作業や運用に従事している方。リーダー、マネージャー、品質管理担当者、人材育成担当者、組織的な改革に携わっている方など 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

会場のみ(オンラインなし)

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

”ルール強化はもう限界”

ヒューマンエラーから脱却するための「人間重視のヒューマンエラー防止法」

◆受講後の修得知識

1) ヒューマンエラー防止のための「仕組み考案のコツ」

2) 「人間力醸成法」

3) 「リスクマインド醸成法」

4) 「品質&改善マインド醸成法」

5) 「全員参加型改善活動の実践法」

6) 「具体的な導入方法」

◆セミナー内容

第1章 ヒューマンエラーと人間重視

1. 1 ヒューマンエラー防止活動の基盤

- 1) ヒューマンエラー防止活動と「価値観の認識」
- 2) 人間のタイプと改善活動

1. 2 ヒューマンエラー防止と本セミナーの主張

- 1) 何故ヒューマンエラーが繰り返されるのか
- 2) エラーが起きる前にやるべき効果的防止法

第2章 失敗を繰り返さないための「人間力の醸成」

2. 1 「失敗の構図」と「品質問題の発生」

2. 2 人間重視と人間力の醸成

- 1) 人間重視の品質改善
- 2) 「わくわく」感と人間力醸成の構図

2. 3 ヒューマンエラーとコミュニケーションの向上

- 1) 演習1「トラブルと人間関係」
- 2) 「心理学的な知恵」と人間関係の向上

第3章 ヒューマンエラー防止のための「動機付け」ケーススタディ

3. 1 人を動かす仕組み考案のコツ

- 1) 「人を動かす仕組みの考案」
- 2) 「人間重視型思考パターン」

3. 2 「動機付けする」ケーススタディ

- 1) 演習2：「人を動かす再発防止計画」
- 2) 人を動かす「再発防止計画1」

第4章 エラー防止のための「リスクマインド醸成」ワークショップ

4. 1 簡単にできる「問題発生防止」

- 1) 「ヒューマンエラー防止」と「リスク管理」
- 2) 「管理者と現場の乖離」を踏まえた「仕組み考案」
- 3) 演習3：「ヒューマンエラーとリスク管理」

4. 2 「リスクマインドの醸成」と「リスク管理の仕組み」

- 1) 「リスク意識の高い集団」と「リスクマインドの醸成」
- 2) 人を活かし動かす「リスク管理」の仕組み事例
- 3) 人を動かす「再発防止計画2」

第5章 エラー防止のための「品質＆改善マインド醸成」ワークショップ

5. 1 エラーを防ぐ「品質＆改善マインドの醸成」

- 1) 「品質＆改善マインド」の醸成事例
- 2) 演習4：「ヒューマンエラー防止と改善提案」

5. 2 「わくわく」感を生み出す「全員参加型改善活動」

- 1) 「全員参加型改善活動」の仕組み事例
- 2) 「改善意識の高い組織」と「全員参加型改善活動」
- 3) 人を動かす「再発防止計画3」

第6章 失敗を繰り返さないための「具体的な実践方法」の勧め

第7章 実践に向けての「動機付け」

第8章 「実践に向けてのご質問」と「エール」

(注) ケーススタディやワークショップを体験いただき、
現場で即、役立つ内容にしたいと考えております。

■受講者の声：

- 目から鱗が落ちる思い、エラー対策を行ってきたが作業者がやる気をなくした状態だった。
- セミナーによりいかに相手のやる気を出させるか、不平、不満の改善等にたどり着くことができた。ちょっとだけ相手の立場に寄り添う等、今日の朝礼から早速実践。とても良い内容だった。
- ヒューマンエラーは半ば「諦めの課題」だった。今回ようやく受講でき、お話を伺い、明日からの業務に活かすことができると思った。